

平成14(2002)年度  
名古屋大学大学院工学研究科  
土木工学専攻

博士課程(前期課程・後期課程)

入 学 試 験 案 内

この案内書は平成14(2002)年度 名古屋大学大学院工学研究科博士課程(前期課程・後期課程)学生募集要項の説明を補い、土木工学専攻の受験に際して必要な事項を記すものである。なお、不明な点は下記へ問い合わせさせていただきたい。

〒464-8603 名古屋市千種区不老町  
名古屋大学大学院工学研究科  
土木工学専攻事務室  
(電話 052-789-3735)

◎博士課程(前期課程)

1. 入学試験科目及び日程

入学試験の科目及び日程は次のとおりである。

- ・願書受付期間 平成13年7月30日(月) ~ 同年8月3日(金)
- ・入試期日及び科目

月 日	時 間	科 目 名
8月28日(火)	10:10~12:00 13:30~16:30	1.外国語(英語) 2.基礎部門
8月29日(水)	9:00~13:00	3.専門部門
8月30日(木)	時間については試験当日通知する。	4.土木工学専攻教官全員による口頭試問

- ・合格発表日 平成13年9月20日(木)正午

2. 科目の選択方法ならびに出題範囲

- ・外国語  
英語のみ。志願者全員必須とする。
- ・基礎部門  
応用数学または小論文、あるいは両方の一部を複数設問中から選択解答する。
- ・専門部門  
「構造系」、「地盤系」、「水・環境系」、「計画系」の4つの系より、それぞれ4~6題出題し、これらの問題から5題を選択解答する。(ただし、1つの系より選択可能な問題は3題までとする。)

出題範囲については4ページの「名古屋大学大学院工学研究科(土木工学専攻)平成14年度博士課程(前期課程)入学試験学力検查出題範囲」を参照のこと。

3. 募集人員

「平成14年度名古屋大学大学院工学研究科(前期課程)学生募集要項」に記載されているように、土木工学専攻の博士課程前期課程の法定定員が14名である(参考のため、H13年度の実績としては18名の法定定員に対し合格者が30名であった)。なお、外国人留学生は別枠定員により採用する。

4. 第二志望

### **土木工学専攻を第一志望とする受験者**

土木工学専攻を第一志望とする受験者は、地圏環境工学専攻を第二志望とすることができる。受験希望者はその旨を志願票に記入すること。また、課せられる試験は、(1)地圏環境に関する小論文試験(8月29日(水)14:30~15:30実施)及び(2)口頭試問(8月30日(木)実施:詳細は別途指示)となっている。詳細については、地圏環境工学専攻の入学試験案内を参照すること。

### **地圏環境工学専攻を第一志望とする受験者**

本学の地圏環境工学専攻を第一志望とする受験者で土木工学専攻を第二志望とする受験者の合否は、地圏環境工学専攻の入学試験の結果に基づいて行われる。

### **その他**

この情報に変更、修正がある場合は次のホームページに掲載するので、随時確認のこと。

<http://www.civil.nagoya-u.ac.jp/> (土木工学専攻のホームページ)

<http://www.genv.nagoya-u.ac.jp/Jindex.html> (地圏環境工学専攻のホームページ)

#### 5. 入学試験場

筆記試験は工学部3号館333教室、口頭試問は工学部3号館土木会議室で行なう。

#### 6. 試験に際しての持参品

受験に際しては受験票を必ず持参する。筆記試験に際しては筆記用具、鉛筆削り、消しゴムのみ持参してよい。電卓は大学側で準備するので持参しないこと。

#### 追記

学科試験の各科目の配点および前年度の試験問題の入手方法については、直接土木工学教室事務室に来室して問い合わせるか、または、封筒の表に「大学院入試についての問い合わせ」と朱書きのうえ、その旨を記した書信と共に返信用封筒(A4サイズが入る角2封筒に自分の住所、氏名を書き、390円切手を貼る)を同封して下記へ送付のこと。

〒464-8603 名古屋市千種区不老町  
名古屋大学大学院工学研究科  
土木工学専攻事務室

## ◎博士課程(後期課程)

後期課程には、一般選抜と社会人特別選抜があり、以下のような第1次及び第2次選考により行なう。

### I. 第1次選考

#### 1. 入学試験科目及び日程

入学試験の科目及び日程は次のとおりである。

- ・願書受付期間 平成13年7月30日(月) ~ 同年8月3日(金)
- ・第1次選考期日及び科目

月 日	時 間	科 目 名
8月28日(火)	10:10~12:00	1.外国語(英語)
	13:30~17:30	2.基礎部門
8月29日(水)	9:00~13:00	3.専門部門
	15:00~16:30	4.試験委員による口頭試問
8月30日(木)	時間については試験当日通知する。	5.土木工学専攻教官全員による口頭試問

- ・第1次選考合格発表 平成13年9月20日(木)正午

#### 2. 科目の選択方法ならびに出題範囲

- ・外国語  
英語のみ。志願者全員必須とする。
- ・基礎部門  
受験者の専攻分野の基礎となる科目。構造力学、土質力学、水理学、土木計画学の中から1科目を選択する。
- ・専門部門  
材料・構造力学、鋼構造工学、コンクリート構造工学、構造設計、土質力学、土質基礎工学、水理学、水文学、海岸・海洋工学、交通計画、交通工学、国土・都市計画、土地利用・立地計画、土木情報学、土木技術史、などから2科目を選択する。

なお、受験希望者は早急に名古屋大学大学院工学研究科土木工学専攻主任あるいは希望指導教官に連絡をとり、受験科目について指示を受けること。

#### 3. 募集人員

「平成14年度名古屋大学大学院工学研究科(後期課程)学生募集要項」に記載されている通り、一般選抜の博士課程後期課程の定員は4名であるが、社会人特別選抜の募集定員はこれとは別に若干名を受け入れることができる。

#### 4. 入学試験場

筆記試験は工学部3号館333教室、教官全員による口頭試問は工学部3号館土木会議室で行なう。試験委員による口頭試問の場所は、試験当日通知する。

#### 5. 試験に際しての持参品

受験に際しては受験票を必ず持参する。筆記試験に際しては筆記用具、鉛筆削り、消しゴムのみ持参してよい。試験に電卓が必要な場合は、大学側で準備するので持参しないこと。

### 第2次選考

第2次選考は、第1次選考合格者を対象として、修士論文の内容に関する口頭試問を行なう。なお、時期としては、平成14年2月上旬~3月上旬を予定している。

名古屋大学大学院工学研究科（土木工学専攻）  
平成14年度 博士課程（前期課程）入学試験学力検查出題範囲

科目名				主な出題範囲
外国語	英語	全員必須	110分 (200点)	
基礎部門	小論文	応用数学または小論文，あるいは両方の一部を複数設問中から選択解答する．	180分 (1問100点， 合計300点)	社会資本整備事業に関連する社会・経済的問題，地球および都市環境問題などに関する小論文で，主としてその論理性を問う．
	応用数学			ベクトル解析，行列と行列式，常微分方程式，および確率・統計の基礎的事項ならびに工学への応用
専門部門	構造系	「構造系」，「地盤系」，「水・環境系」，「計画系」の4つの系より，それぞれ4～6題出題し，これらの問題から5題を選択解答する． <u>ただし，1つの系より選択可能な問題は3題までとする．</u>	240分 (1題100点， 合計500点)	材料の応力とひずみ，骨組構造物の解法，マトリックス構造解析の初歩，鋼構造の諸問題，コンクリート構造の諸問題
	地盤系			土の基礎的性質，圧密，せん断，浸透，斜面安定，支持力，各種室内土質実験とその設計への適用，軟弱地盤対策，岩盤の工学的性質など
	水・環境系			流体の性質，静水力学，流れの基礎方程式，開水路ならびに管路の流れ，波の基本特性と変形，風波，波圧と波力，雨水の流出，河川・地下水の水理，河川・海岸構造物，河川計画，衛生工学，大気汚染，水質汚濁など
	計画系			土木計画における統計的・数理計画的手法，費用便益分析，地域計画，都市計画，土地利用計画，交通工学など

なお，これ以外に土木工学専攻全教官による口頭試問がある．

指導教官および教育研究内容一覧表

専門分野	指導教官	教育・研究内容
構造工学 ・ 材料工学 ・ 情報工学	田邊 忠顕 教授	不連続体の力学，コンクリート構造物の耐震解析，多孔体内の物質移動・吸着拡散
	宇佐美 勉 教授	地震工学，鋼構造物の耐震・免震・制震設計，座屈・耐荷力，耐震解析，ハイブリッド地震応答実験
	伊藤 義人 教授**	構造物のライフサイクルアナリシス，環境システムなどの情報処理，地震力及び衝撃を受ける構造物の挙動とその設計法
	中村 光 助教授	破壊力学のコンクリート材料への応用，RC構造物の耐震解析，RC構造物の非線形数値解析
	葛 漢彬 助教授	鋼構造物および鋼・コンクリート複合構造物の弾塑性挙動解析，構造物の耐震設計法および耐震性の評価
地盤工学	浅岡 顕 教授	土の弾塑性力学，水～土骨格連成の地盤の変形解析・支持力解析，「構造」や「異方性」を有する自然堆積粘土の力学挙動のモデル化と実験
	澤田 義博 教授***	地震の発生メカニズム，模擬地震動の作成，地盤振動，振動制御，構造・地盤連成系の解析
	中野 正樹 助教授	自然堆積粘土の時間依存的挙動，第三紀泥岩のスレーキングのメカニズム，超過圧密粘土・飽和砂の進行性破壊
	野田 利弘 助教授*	有限変形理論に基づく土の変形解析，計算による地盤や斜面あるいは台地等の生成過程や地殻変動の再現
河川工学 ・ 海岸工学 ・ 水環境学	岩田 好一朗 教授	不規則波の変形，人工干潟の安定工法，波による局所洗掘機構，海岸災害防止工法
	辻本 哲郎 教授*	移動床流れの水理，河川の生態環境水理，河相の変遷，河川災害
	片山 新太 教授****	土壌・地下水汚染の微生物浄化，土壌・地下水汚染の浄化シミュレーションと評価，化学物質の土壌生態系への影響評価，有機質廃棄物のコンポスト化処理と地域ネットワーク
	水谷 法美 助教授	海岸構造物の耐波安定性，海岸・海洋構造物による波の変形と作用波力，伊勢湾の風波と風成流
	北村 忠紀 講師*	侵食のメカニズム，河川における土砂輸送と生物生息場，河川植生が流れや土砂輸送に及ぼす影響
都市計画 ・ 交通工学 ・ 空間設計学	河上 省吾 教授*	動的交通需要予測，高度交通情報の効果分析，交通システムの計画策定法，都市計画
	西 淳二 教授*	都市地下空間の設計，地下空間利用の歴史，地下のインフラストラクチャの効果，空間デザインの総合評価，地下空間行動学
	中村 英樹 助教授*	交通工学，交通計画，交通管理，高度道路交通システム(ITS)，車両挙動・交通現象のモデル化，交通流シミュレーション，道路幾何構造

(\*)地圏環境工学専攻，(\*\*)理工科学総合研究センター，(\*\*\*)振動等集中管理室，(\*\*\*\*)難処理人工物研究センター